

教育委員会第11回定例会議 会議録

1 日時 平成23年11月16日(水)
開会 13時30分
閉会 14時45分

2 会場 金沢市本庁舎 4階401会議室

3 出席委員(6名)

教育委員長	佐藤秀紀
教育委員	前川信政
〃	柳下道子
〃	米井裕一
〃	早川芳子
〃(教育長)	浅香久美子

4 欠席委員(1名)

教育委員	岡能久
------	-----

事務局	教育次長(兼)学校職員課長	上林雅彦
	学校教育部長	平嶋正実
	(兼)市立工業高等学校教育改革推進室長	
	教育総務課長	浦世史宏
	教育総務課担当課長(兼)課長補佐	高村政博
	教育委員会担当部長(兼)学校指導課長	野村豊
	学校指導課担当課長(兼)課長補佐	山田裕
	教育委員会担当部長(兼)市立工業高等学校事務局長	奥村敏郎
	生涯学習部長(兼)生涯学習課長	縄寛敏
	教育委員会担当部長	森田勝
	(兼)図書館総務課長	
	(兼)玉川図書館長	
	泉野図書館副館長	廣田康太郎
	玉川こども図書館副館長	村田健
	金沢海みらい図書館長	石蔵茂幸
	教育プラザ富樫総括施設長	越田理恵
	(兼)地域教育センター所長	
	研修相談センター所長	山下美奈子
	市立工業高等学校長	浦上光太郎
	文化財保護課長	出越茂和
	都市政策局担当部長(兼)歴史建造物整備課長	野島宏英

5 案件

- 議案第30号 平成22年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価について (教育総務課他)
- 議案第31号 平成24年度金沢市立小・中学校における教育課程の編成方針について (学校指導課)
- 議案第32号 金沢市伝統的建造物群保存地区保存審議会への諮問について (歴史建造物整備課)
- 議案第33号 定例第4回金沢市議会提出予定案件について (教育総務課他)
- 議案第34号 金沢市社会教育委員の委嘱について (生涯学習課)
- 報告第20号 金沢市社会教育功労者表彰について (生涯学習課)
- その他
- (1) 金沢市立工業高等学校と韓国全州工業高等学校との国際交流事業の報告について (口頭報告)
- (2) 第35回(平成23年度)金沢市市民大学講座の実施報告について
- (3) 金沢市立図書館の利用者アンケート実施結果について
- (4) 次回の定例会議の日程について

6 議事の経過等 以下のとおり

佐藤委員長の開議あいさつに続いて、議事録署名委員として早川委員を指名した。本日の議題について佐藤委員長が議案第32号、議案第33号、議案第34号を非公開とするよう発議し、全会一致で非公開とすることを決定した。

審議に入り、議案第30号、議案第31号、報告第20号、その他(1)(2)(3)について資料に基づき説明があり、質疑応答が行われ、原案どおり承認した。また、12月の定例会議の開催日を次のとおり決定した。その後、議案第32号、議案第33号、議案第34号について非公開で審議に入り、原案どおり可決し、閉会した。

* 12月の定例会議の日程：平成23年12月21日(水)13:30～

[案件の説明及び諸報告について]

案件について、別添資料等に基づき事務局より説明・報告し、原案どおり承認された。

[主な質疑・応答の内容について]

議案第30号 平成22年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価について(教育総務課他)

(説明の概要) 別冊の議案第30号資料でご説明する。この点検・評価は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第27条の規定に基づき行われるもので、今回で4回目となる。内容は、前年度の教育委員会事務局に委任された事務を含めた教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況について、自己点検・自己評価し報告書として取りまとめを行うもので、本日お諮りした内容で議決いただければ後日金沢市議会議長へ報告する。今回の点検・評価をまとめるに当たり、事前に各教育委員からの意見を反映したほか、昨年度に引き続き、金沢大学名誉教授・金子勲様、金沢市社会教育委員・中島秀雄様からの意見も反映している。

3～7ページには、教育委員の活動状況について取りまとめ、点検・評価及び今後の方向性、全体の総括などを掲載した。4ページの「[3]教育委員の活動 1.学校訪問(総合訪問)」では、教育委員の訪問が、昨年度同様延べ100人、意見交換を行った教職員数913人と大変充実した状況となっている。また今年度から3年に一度の学校訪問を2年に一度に変更している。

事務局の主要事務事業の点検・評価については、さらに分かりやすく、また今後の見直しや新しい施策に生かせるよう、教育委員の方々からのご指摘や有識者のご意見を反映させ、改善を加

えてきた。

8 ページでは、従来同様、世界都市金沢の実現に向けた金沢市第 2 次基本計画の体系に基づく教育委員会施策を、主要政策の対象事業として取りまとめている。今年度から、金沢市第 2 次基本計画の基本方針ごとに各事務事業の総合的な評価を取りまとめ、掲載することとした。各主要事務事業のまとめ方について、各事務事業で、事業の対象、開始時期、予算額を明記し、目的、目標と事務の内容を分離し、点検と評価についても分離し、「A：十分達成できた」「B：おおむね達成できた」「C：やや不十分であった」「D：達成できなかった」の 4 段階で自己評価を行い、その結果を掲載するなどの改善を行った。

また昨年同様、学識経験者からの意見も報告書の 1~2 ページに掲載している。金子勲様からは、点検・評価報告は年々整ってきているが、記述のあいまいさ等で分かりにくい部分が見受けられ、関連事業の円滑な実施のための有効な情報提供という機能を果たすためにも、さらに改善が必要とのご指摘をいただいた。部分的にあいまいな部分であっても、現実的に柔軟に対応する方が、結果として本質を失わない取り組みを実施することができるかもしれないということで、同一形式による点検・評価の適切性について、点検・評価の在り方を再考する余地があるのではないかとのご意見もいただいている。また中島秀雄様からは、今年度から自己評価で 4 段階評価を取り入れたことについて、特に C と評価された事業については、事業対象に広がり求め、より効果的に事業展開を図ろうとする姿勢、あるいは問題点を把握し、23 年度中に対応を検討し 24 年度に新たな試みを行うといった方向性が示されたものがあり、大いに評価できると述べられている。その反面、具体的な課題の抽出がなく、単に見直しが必要と書かれているだけのものがあり、事業評価の仕組みと意義について改めて確認・徹底が必要とのご指摘もいただいている。そして PDCA 手法は事業遂行中でも常にそれぞれの局面で行われるべきものだとのご意見もいただいた。お二人の学識者からのご意見については、今後の執行、また点検・評価に反映させていきたい。

佐藤委員長

教育委員の活動内容については、直接われわれ教育委員がかかわることが多いと思いますが、総括の最後に、さらに幅広く学校管理職や保護者などとの意見交換の場を持つということ、あるいは教育委員がもう少し外に対しての意見や提言などを出していくような姿勢を持って、開かれた教育委員会を目指したいと指摘されています。これからこのような視点に立った教育委員会のさらなる活動の活性化を目指さなければならないと思っております。

主要事務評価については、表現形式が比較の見やすくなった形になったのはなかなかいいのではないかと思います。また 4 段階評価ということで、評価も明確になっているのも分かりやすいのではないかと思います。この 4 段階評価を集計した表が 9 ページの一番上に出ています。どのような分野に対してどのような評価がされているかということで、概略の全体的な評価がわかりやすくよい表示だと思います。さらに内容をわかりやすくするために、129 の事業項目の評価をここに同時に示せば、一つの目次のような形にもなり、よいのではないかと思います。また検討していただければと思います。

この点検・評価報告書は、金沢市教育委員会の活動全般がどのように行われ、それがうまく行われているのか、どこに問題点があるのかということと点検・評価するものであり、さらにこれからの対策を見るものでもあると思います。そのようなものが見えやすい表示方法等について、今後またさらに検討を加えていただければと思います。

前川委員

この点検・評価は何年か続いていると思うのですが、9 ページの表を見ても、A が 60% 近く、C は 3% 強と、かなり自己評価としては高い評価結果ではないかと理解しています。自己評価ですからそれはそれとしていいと

と思いますが、昨年度もそうですが、この評価をした後、翌年あるいは翌々年の施策に向けて、その評価を踏まえて実際にどう施策を変えていったのか、足りないところをどうしたのか、あるいは十分と言いながら改善したというようなことが、なかなか教育委員会全体として、しっかりとした形で出てきていない気がします。せっかく単年度ごとに自己評価をしているのですから、24年度の施策に向けて、この評価を受けた形でどう変わっていったか見える何かが必要ではないでしょうか。ただ単年度の評価だけで終わってしまって、今のように6割方うまくいった、大変結構だというので終わってしまっては、せっかくの評価が後に生かされない気がします。ですので、そのあたりの工夫、あるいは実際の工夫でやっていることがあれば。

例えば21年度の自己評価を受けて、23年度ではこのようにやった、あるいは24年度はこのように変えてきたというものが少し分かるような形で、あるいは職場・現場に対しても分かるような形で進めていってほしいというのが私の印象です。

佐藤委員長

点検・評価は何のためにあるのかというところにかかってくると思います。一部そういうことを書いてある箇所もあったかと思いますが、PDCAすなわちチェックをして次のアクト、プランにつなげていくということが、できるだけ見やすい表現にするとともに、実際の行動につなげていくことをお願いしたいと、そういうことかと思えます。

米井委員

たくさんの事業をするのも大変だと思います。ただ、自己評価とおっしゃられましたが、何を基準にAという評価をしているのか。B~Dもそうですが、官能評価的な部分もたくさんあると思うので難しいとは思いますが、その辺の評点基準を明記した方がいい気がします。

また、評価者は誰なのか。例えば、その事業の当事者だけなのか、あるいは複数入っているのか。A~Dを疑っているわけではないのですが、より信ぴょう性を出すために、その辺のことも明示していく方がいいのかなと思います。もし何か基準があれば具体的に教えていただきたいです。

浦教育総務課長

今回から4段階の評価を始めたわけですが、ご指摘のようにあくまでも自己評価ということで、担当した部局において自己評価を行いました。確かにそれぞれの課や施設において、評価における基準が一定であったかと言われると、そうでない部分もあったのかもしれません。来年度からの評価では、そういうことがより明確になるよう事務局としても検討していきたいと思えますし、そういった表現ができれば、基準の明示も行っていきたいと考えています。

米井委員

どの人がやっても同じになることは多分ないと思いますが、より近づけるような工夫・努力をしていただきたいです。

それから、予算に結構ばらつきがあります。お金の大小で大事とか大事でないということを決められないとしても、同じような評価がここでのいいのかなと感じるところがあります。それから、ある程度期間一定でやっているものと、恐らくずっと続くだろうというものもあります。事業の性質も、同じ土俵で比較できないか、もう少し言及することがあるのではないかという気がしました。特に大きな予算を使っているものはもう少し詳しく書いてもいいのではないかという感じがしました。

早川委員

資料をずっと見ていると、参加者など去年との違いが分かる項目と、何となく分からない項目とがあります。もちろん人数が多いことが必ずしも良い結果ではなかったり、いろいろなプランがあるのでしょね。去年と

比べてどうだったのかが分かったら、もう少し納得できる項目もあるという気がしました。例えばジュニアかなざわ検定が去年よりも1,000人受験者が増えており、増えてよかったというようなことです。面接相談事業では、相談した人が4,482人となると増えた方がいいのか減った方がいいのかは分かりませんが、相談しやすい雰囲気がたくさんの方が来てくれた方がいいのかしらとか、去年はどうだったのだろうと知りたくなります。何年間にわたるプロジェクトなら特にそのような変化があったのか知りたいのに、見えにくい実績もありますね。特別にこれといったアイデアはありませんが、何かもう少し動きが分かる方法はないでしょうか。来年はどうしようか、来年になったときに今見ているものと来年はどう違っていくのか、ここに書かれた対策や方向性、課題は解決されたのかされなかったのかという動きも見えたらいいなと思います。

佐藤委員長

毎回申し上げていますが、点検・評価は非常に重要な教育委員会としての仕事かと思えます。点検・評価のやり方についても、少し議論する場が得られればいいと思えます。これは毎年続くことですので、少しずつ良くなっていくようにできればと思います。よろしくご検討をお願いします。内容等の細かい事項やてにをは等について、委員長の私と事務局に一任していただくことでよろしいでしょうか。

委員一同

異議なし。

議案第31号 平成24年度金沢市立小・中学校における教育課程の編成方針について（学校指導課）

（説明の概要）別冊の議案第31号資料でご説明する。「金沢市立小・中学校における『教育課程の基本方針』案」は、学習指導要領を踏まえ、金沢市教育委員会として、各学校長が特色ある教育課程を編成する上で大切にすべき基本方針や、各学校が教育課程を編成し実施するに当たっての留意点について示したものである。

平成24年度は、中学校の新学習指導要領の全面実施に伴う修正のほか、小・中一貫教育、学校図書館司書の配置、防災教育の視点などを加えている。基本方針は「1.個性を生かし、主体性・創造性を育む」「2.豊かな心と社会性を育む」「3.体力の向上及び心身の健康の保持増進を促す」「4.地域に開かれた学校づくりを進める」「5.金沢に学び発信する」の五つで、基本的に昨年度から変更はない。

主な変更点は、「はじめに」3段落目（上から11行目）に、中学校の新学習指導要領の全面実施を記載し、移行措置期間の記載を削除、その他文言等の整理をしている。基本方針1においては、2ページ（9）で学校図書館司書の今年度の新規配置を受けて文言を追加している。（12）では「義務教育9年間を見通して、発達の段階に応じた小学校教育と中学校教育の連続性の確保を重視」するという、小・中一貫の視点を付加している。基本方針3、5については、文言等の整理で終わらせている。

5ページ「各学校が特色ある教育課程を編成し、着実に実施するために」は、各学校が教育課程を編成実践するに当たっての留意点を「1.学校の基本方針」「2.年間指導計画の具体的な作成」「3.教育課程の実施状況の適切な把握と改善」「4.指導体制の確立」の4項目に分けて示している。

そのうち「2.年間指導計画の具体的な作成」（2）で、中学校の新学習指導要領の全面実施に伴う追加、移行措置期間の記載の削除、中学校における金沢スタンダード・ベーシックカリキュラムの活用を追加した。（3）では、全面実施に伴う選択教科や総合的な学習の時間の修正をしている。（5）においては、学校図書館司書の配置に伴う学校図書館の活性化、東日本大震災を受けての防災教育の推進を加えている。「3.教育課程の実施状況の適切な把握と改善」では、（1）で国立教育政策研究所発行の参考資料（通知済み）の活用について付加している。

9 ページの標準授業時数について、小学校は低学年の英語活動について明記している。一方中学校は表の太線で囲んだ個所で変更があり、国語は第2学年の105時間が140時間に、社会では第3学年が歴史的な分野を実施することもあり85時間が140時間に、保健体育は各学年90時間が105時間に増加し、総合的な学習の時間は一律35時間となる。総授業時数では、各学年980時間から1,015時間(35時間増)に増加する。

以上の基本方針を認めていただければ、「教育課程編成の基本方針」に基づき、金沢スタンダード・ベーシックカリキュラムを活用しながら、各学校の実情に応じた特色ある教育課程を編成していく流れとなっている。なお、中学校の金沢スタンダード・ベーシックカリキュラムについては、次回定例会議でお諮りしたい。

米井委員

6 ページ「(3) 指導内容の組織」と書いてありますが、何を意図してこういうタイトルになっているのでしょうか。

野村学校指導課長

子どもたちに指導する内容がいろいろありますが、どのように組み立てて計画的にやっていくかということで、教育界の中でよく使われる言葉の一つと考えていただけたらと思います。特に金沢市で独自に作った言葉ではありません。

佐藤委員長

「カリキュラム化」などという言葉ではないのですか。また違うのですか。

野村学校指導課長

カリキュラムという言葉をついいろいろなところで使っていますが、ここでは指導内容を具体的にどのような形で計画を立ててやっていくかというところで使っている言葉と考えていただければと思います。

浅香教育長

私が申し上げるのもいかなものかと思いますが、金沢「絆」教育を何年かやってきました。6 ページ「実施するために」で金沢「学びタイム」が出てきます。また、内容的には「2.豊かな心と社会性を育む」の本文などの中に全部入っていると思うのですが、もう少し明確に金沢「絆」教育という言葉を入れても良かったかなと思っております。

野村学校指導課長

ご指摘どおりかと思えます。21年度から金沢市では金沢「絆」教育ということで充実した実践を目指しておりますので、事務局でその言葉をどこに入れたら適切かを考えたいと思えます。教育委員のほかの方々にも、どのあたりに入れたらいいかというご意見をいただければありがたいと思います。また、事務局で考えた案で適切に運ばれるかどうかについては、この後学校指導課で案を考えさせていただき、教育長にお諮りして進めていくこともできるかと思えますが、そのあたりもまた決めていただければと思います。

佐藤委員長

基本方針に上がっている五つの柱の項目についてですが、この五つの柱で金沢の学校教育を進めるということは、どこか別のところにも載せられていることなのではないでしょうか。それとも、これはここだけで示されているものではないでしょうか。その関係が何かあれば教えてください。

野村学校指導課長

金沢市教育委員会では、「金沢子どもを育む行動計画」を策定し、その中で学校の行動計画を示していますが、その中にも大きな五つの柱があります。行動計画の1番目は「学力の向上」となっていますが、それらの中身に基づいて「1.個性を生かし、主体性・創造性を育む」という柱を立てております。また、子どもを育む行動計画の大きな柱の2番目が「豊かな心と社会性の育成」ということで、ほとんど文言が重なる形で使わせていた

だいています。以上のように、五つの柱については、おおむね「金沢子どもを育む行動計画」にある柱を生かしながら、教育委員会の基本方針を考えています。

佐藤委員長

それでは、「金沢子どもを育む行動計画」の中で挙げられている目標になるということですね。先ほどの点検・評価の中でC評価だったので、もう少ししっかりと徹底していただく必要があるということでしょう。

早川委員

「5.金沢に学び発信する」の「発信」という言葉はすごくあいまいな日本語で、私たち通訳の業界ではどのように英訳するかすごく苦労します。最後に「学ぶことを広く発信できるよう」とありますが、この「発信」という言葉は、具体的にどのような意味で使われているのでしょうか。

野村学校指導課長

「発信」は、教育界の中ではよく使われている言葉の一つになります。よくあるのは、保護者に広く発信する、あるいは地域に発信する、学習活動でお世話になった人たちにお礼の意味も込めて発信するなど、いろいろな言葉で使われています。学んだことを学校の中だけに閉じ込めておくのではなく、ほかへ広く知らせ、同時に子どもたちがほかのところへかかっていこうという思いを併せて持ってもらえればという意味が込められています。

報告第 20 号 金沢市社会教育功労者表彰について（生涯学習課）

（説明の概要）平成 23 年度金沢市社会教育功労者として、7 名の個人と 1 団体を表彰することが決定した。いずれも社会教育の振興にご功績のあった方々及び団体である。個人では、ボーイスカウト金沢地区協議会の南谷外夫さん、金沢市レクリエーション協会の南野洋子さん、金沢市校下婦人会連絡協議会の玉野志津子さん、公民館関係では犀川公民館館長の松岡勇之助さん、西南部公民館館長の村田紀代司さん、旭日公民館館長の田辺時男さん、小坂公民館副館長の田中邦夫さんの 7 名。団体は「まいどさん会」である。

「まいどさん会」は、かつて子ども会の世話をされていた方々が、現在の金沢市子ども会連合会を物心両面から支援することを目的に平成 3 年に発足した団体である。主な活動として、百万石まつりの子ども提灯太鼓行列などへのボランティア派遣、金沢市青少年団体連絡協議会の行事や明るい社会づくり運動などの諸行事への参加など、幅広い活動を行っている。団体への表彰は平成 9 年度から 14 年ぶりとなる。

表彰式は 12 月 1 日、午後 1 時半から市役所 7 階全員協議会室で予定している。委員の皆さまにもぜひご出席をお願いしたい。

（特になし）

その他（1）金沢市立工業高等学校と韓国全州工業高等学校との国際交流事業の報告について（口頭）

（説明の概要）4 月当初から担当者が代わっても持続可能であること、目的を達成し成果が見込めること、経費が最小限で済むこと、相互互惠の原則が守られること、華美にならないことなどを勘案し交流先を模索したところ、金沢市の姉妹都市交流の枠組みの中で、韓国全州市の道立全州工業高等学校との実施に至った。全州工業高等学校は、生徒数 1,400 名、48 クラス（本校の約 2 倍）創立 90 年を超える歴史ある学校である。本年 10 月 30 日から 11 月 2 日まで、全州市 2 泊、ソウル 1 泊の日程にて、公募で決定した有志生徒 18 名（男子 8 名、女子 10 名）、引率 5 名で実施した。全州工業高等学校が周到な滞在計画を立ててくださったこともあり、学校訪問、校内視察、文化体験、ホームステイなどを通じて、異文化をありのままに受け入れ、日本人としてアイデン

ティティーを高め、世界平和を考える機会とするなど、当初の目的は達成されたと考えている。生徒たちにホームステイを体験させたところ、お互いインターネットを通じて無料の翻訳アプリケーションをダウンロードしてコミュニケーションを図るなど、若者の環境に適応する力にも感心するところがあった。日韓の国家間では領土問題や歴史認識の違いが存在することなども教えていったが、話題にはならなかったようである。今回の訪問直前に石川県知事と金沢市長が全州を訪問されたこともあってか、交流事業翌朝の朝刊には、現地の地方新聞9紙のうち7紙に写真入りで報道されるなど、現地での受け入れについて環境が整っていたと感じられた。

今後は全州工業高校の金沢訪問を経て、将来どのようにするかを検討したい。

佐藤委員長	工業高校同士ということですが、特に市立工業高校とは異なった、あるいは素晴らしいなど、工業高校として見た場合に印象に残ったことがありますら、一言お願いします。
浦上市立工業高等学校長	現地の学校は敷地面積も広く、校舎間を移動するのに道を歩いていくという、大学のキャンパスのような雰囲気の中で、1,400人の生徒の99%が男子生徒でした。実習機器は少々古いものもありましたが、授業風景を見たり教員同士の交流など、教えられることが大きいと考えております。
早川委員	参加した生徒たちは、レポートを提出するのですか。
浦上市立工業高等学校長 早川委員	今、感想文や報告書を集約しております。 一番面白かったカルチャーショックや、本当にびっくりしたことなど、若い人たちが異文化に触れてどのように感じたのか非常に興味があります。ぜひ知らせていただきたいと思っております。
浦上市立工業高等学校長	後日、ご報告申し上げます。

その他(2) 第35回(平成23年度)金沢市市民大学講座の実施報告について

(説明の概要)今年度の市民大学講座は今月10日で終了した。計6回行い、4,492名の方が受講されている(第1回荒川静香さん866名、第2回渥美公秀さん655名、第3回山根基世さん744名、第4回川口淳一郎さん735名、第5回茂木健一郎さん834名、第6回岡田恵和さん658名)。昨年度に比べ、延べ人数526名、1回当たりの平均入場者数で88名増えている。来年度も引き続き、多くの市民の方に来ていただけるような講師の選定に当たっていききたい。

佐藤委員長	年を追って参加者が増えてきていることは、大変喜ばしいことです。これからも魅力ある講師を招いていただき、盛り立てていただければと思います。
早川委員	川口淳一郎先生が客席を見て、「僕はもっと若い人に話をしたい」と言われていました。社会的な動向として、時間があり学びたい人たちということになると年齢がどうしても高くなってしまいますね。もう少し学生や若い人たちにも来ていただけるようなPR方法を、ぜひ考えてください。
縄生涯学習課長	川口先生については、11月5日のキゴ山の講演会にも来ていただきましたが、そのときは親子連れで来ていただくなど大変好評でした。早川委員のご指摘については、来年度の講師選定で考えていききたいと思っております。

その他(3) 金沢市立図書館の利用者アンケート実施結果について

(説明の概要) 市民の図書館利用促進のため、利用者の利用状況や満足度等を調査し、図書館サービスの向上を図る目的で、今年もアンケートを実施した。回収枚数は合計約2,400枚である。年齢構成について、それぞれの図書館の特徴が出た結果が読み取れる。

来館方法については、泉野・玉川こども・金沢海みらい図書館の来館者は車利用が非常に多い。泉野・金沢海みらい図書館は比較的駐車場の台数が確保されており、玉川こども図書館は親子連れということで車の利用がどうしても多くなると考えられる。玉川図書館はまちなかの図書館であるため駐車場が少なく、徒歩・自転車・公共交通等で半数以上となっている。引き続きこども図書館と併せて公共交通機関の利用を呼び掛けていきたい。

来館目的については、本の貸出が最も多く、こども図書館は子どもの付き添いが目立っている。利用頻度は、月2回が一番多い結果となっているが、これは図書の貸出期間が2週間であることが理由と考えられる。利用時間帯は、昨年度のアンケート同様、いずれの図書館でも10~12時、14~16時の利用が最も多い傾向にある。利用者の主観的な5段階評価による満足度では、玉川こども図書館が最も高い。また、アンケートの自由記載欄にご記載いただいた代表的なものは個別意見として資料に記載した。各図書館では満足度調査結果ならびにこれらの意見も十分考慮して、今後のサービス向上に努めていきたい。

なおアンケート結果は、ホームページに掲載するほか、各図書館の掲示板にも掲載し、利用者に公表する予定である。

早川委員

二つ質問します。一つ目は、先ほどの点検・評価で、こども図書館以外はB評価と皆さん結構満足していらっしゃるようですが、評価は厳しかったのでしょうか。

二つ目は、ナイトライブラリーが玉川図書館で開催されたとありますが、何をなさったのでしょうか。

森田図書館総務課長

点検・評価は、確かに玉川こども図書館がA、ほかはBと、利用者のご意見もいろいろ気にしながら、ほぼ達成という評価にさせていただきました。

ナイトライブラリーですが、玉川図書館は閉館が午後7時ですので、7時15分くらいから約1時間、フリーアナウンサーの方に星新一の朗読をお願いしました。当初は40人募集したのですが、60人近くの応募があり、お断りするのも申し訳ないので、できるだけ多く入っていただくということで60人で実施しました。夜の図書館の雰囲気も味わっていただき、非常に好評でした。

早川委員

秋に開催されたのですか。

森田図書館総務課長

秋です。

佐藤委員長

満足度について、玉川こども図書館の職員対応を見ると、ほかと比べて圧倒的にいいようです。どこがどのようにいいかを見て、ほかのところもぜひ見習うように頑張っていたいただければと思います。

前川委員

アンケートを実施したのは8月19~21日と、かなり暑い時期ですね。この時期にアンケートをすることについて、どのようにお考えですか。子どもたちは夏場によく利用するのですが、一般の方は読書週間などの時期にたくさんいらっしゃるのかなと思ったので、この時期を選ばれたのはなぜか。また、これは毎年同じ時期にやっていたらいいのでしょうか。

森田図書館総務課
長

満足度調査は5年に1回という考えで実施してきたが、20年度は夏に土日の開館時間を延長しまして、そのときに利用者の反応も見たいということで併せて実施し、2年間行っています。今年は海みらい図書館の開館で、人的にも物的にもそちらにエネルギーがかかることもあり、この委員会でも各位から少しでも延長をとのご意見はいただいていたのですが、延長はしておりません。ただ、同じ時期にアンケートを取った方が、同じように評価を比較できるかと考えました。おっしゃるように読書週間もありまして、その時期に取るのも一つかと思いますが、正直に言いますと、夏は子どもだけではなく一般の利用者も多いように思われます。そういうことを踏まえ、できればこれからも夏に実施したいと思います。

佐藤委員長

アンケートにはいろいろな理由があって、5年に1回なのかもしれませんが、状況を見ながら改善すべきことは改善するというところから、もう少し期間を縮めてやっていただいてもいいのかなとも思います。また、ご検討いただきたいと思います。

以 上

会 議 録 署 名

教育委員長 _____ 署 名

教育委員 _____ 署 名

(早川委員)

[非公開議案の審議結果について]

議案第 32 号 金沢市伝統的建造物群保存地区保存審議会への諮問について（歴史建造物整備課）

審議結果についても、非公開

議案第 33 号 定例第 4 回金沢市議会提出予定案件について（教育総務課他）

審議結果についても、非公開

議案第 34 号 金沢市社会教育委員の委嘱について（生涯学習課）

社会教育法第 15 条第 2 項および金沢市社会教育委員設置条例第 2 条の規定により金沢市社会教育委員を委嘱します。

1 委員の委嘱

氏名	所属機関・団体名等	備考
にしざき たつお 西崎 辰雄	金沢市中学校長会会長	再任
かねだ ひろし 金田 洋	金沢市公民館連合会会長	
たかた ちえこ 高田 千恵子	金沢市校下婦人会連絡協議会会長	
くぼた あつし 窪田 篤	金沢市青年団協議会会長	
まさき あきら 正木 明	金沢市子ども会連合会会長	
おおしま じゅんこう 大島 淳光	金沢市 P T A 協議会会長	
よねざわ ひろし 米沢 寛	金沢市体育協会会長	
なんぶ ゆうじ 南部 雄二	公募委員	新任
すがむら みちこ 菅村 美知子	公募委員	

2 任 期

平成 23 年 12 月 1 日から平成 25 年 11 月 30 日まで（2 年間）

3 理 由

任期満了による委嘱（再任）及び公募による新たな委員の委嘱（新任）

(参考) 金沢市社会教育委員名簿

氏 名	所属機関・団体名等	任 期
にしぎき たつ お 西 崎 辰 雄	金沢市中学校長会会長	H23.12.1~H25.11.30
かね だ ひろし 金 田 洋	金沢市公民館連合会会長	H23.12.1~H25.11.30
たかた ちえこ 高 田 千 恵 子	金沢市校下婦人会連絡協議会会長	H23.12.1~H25.11.30
くぼ た あつし 窪 田 篤	金沢市青年団協議会会長	H23.12.1~H25.11.30
まさ き あきら 正 木 明	金沢市子ども会連合会長	H23.12.1~H25.11.30
おおしま じゅんこう 大 島 淳 光	金沢市PTA協議会会長	H23.12.1~H25.11.30
よね ざわ ひろし 米 沢 寛	金沢市体育協会会長	H23.12.1~H25.11.30
なん ぶ ゆう じ 南 部 雄 二	公募委員	H23.12.1~H25.11.30
すが むら みちこ 菅 村 美 知 子	公募委員	H23.12.1~H25.11.30
なか じま ひで お 中 島 秀 雄	学識経験者(会社経営)	H22.4.1~H24.3.31
しば や よし ぼ 澁 谷 良 穂	学識経験者(金沢医科大学教授・外国語)	H22.4.1~H24.3.31
やえ ざわ みちこ 八重 澤 美 知 子	学識経験者(金沢大学教授・心理学)	H22.5.1~H24.4.30

以 上